

新しいワクチンの誕生まで

日本で現在主として使われているファイザー・ビオンテックとモデルナの新型コロナワクチンは、これまでになかった全く新しいタイプの「mRNA（メッセンジャー RNA）ワクチン」です。



この開発に最も貢献したのは、ハンガリー出身の女性研究者、カタリン・カリコ博士です。彼女は、当時研究環境

が十分でなかったハンガリーから米国に渡り、長年 RNA の代謝の研究を続けてきました。

当時、遺伝子研究の主流は DNA であり、米国でも RNA の研究はあまり日の向らない時代でしたが、彼女は研究費不足など悪条件でも細々と研究を継続し、2005 年にドリュー・ワイスマンとともにペンシルバニア大学で始まった研究から、mRNA の特定のヌクレオシドを修飾すると免疫応答の低下を起こすことを発見しました。

この研究成果は注目を集めませんでした。彼女は、2006 年と 2013 年に「mRNA に対する抗ウイルス免疫応答を低下させるための修飾ヌクレオシドの使用」という特許を出願しました。

その後、この特許のライセンスは、ともに癌免疫療法などの開発をめざしているベンチャー企業の米国モデルナ社とドイツのビオンテック社が取得しました。

ビオンテックの創始者は、研究者であり医師でもあるウール・シャヒン・エズレム・チュレジ夫妻で、2 人ともトルコ系移民です。

2 人はマインツ大学で腫瘍学の研究指導を受け、2001 年に上部消化管がんの新規治療薬開発のためのガニメド社を設立し、さらに、2008 年にビオンテック社を設立しました。どちらも、がんの免疫療法、特に mRNA を用いた免疫療法を目指して研究開発をしていました。

カリコ博士はペンシルベニア大学では待遇が悪く、この研究を応用する機会がないことに気づき、副社長（その後、2019 年に上級副社長）として招聘をうけたビオンテック社に 2013 年に移籍して、ファイザー社とも協力して季節性インフルエンザ用の mRNA ワクチン開発を進めてきました。

2020 年 1 月中旬、新型コロナの遺伝子情報が中国から発表されると直ちに mRNA ワクチン作成を開始し、以後、ビオンテック社の研究者を総動員して実用化を目指し、開発に成功したのです。

カリコ博士の長年の研究環境は望ましい状態ではなく、彼女の研究が価値があることを人々に納得させるのに大変な苦勞をしましたが、今や、メッセンジャー RNA テクノロジーの飛躍的進歩は、世界中の何十億もの人々の生活を支え、世界的な流行を終わらせるのに役立つ可能性がある」と期待されるようになり、彼女はノーベル賞に一番近い女性といわれています。（次号に続く）

コロナ対応 臨時国会開け 4 野党が合同院内集会

日本共産党、立憲民主党、国民民主党、社民党の 4 野党は 8 月 17 日、臨時国会召集を求める院内集会を開催し、4 野党党首が出席し、臨時国会の召集を迫りました。

発言した 4 党首は、野党が憲法 53 条に基づく臨時国会召集要求を 7 月 16 日に行つてから、1 カ月を過ぎても政府・与党が応じないことは許されないと批判。新型コロナウイルス感染爆発から国民の命を守る対策をとるため、緊急に臨時国会召集が必要だと強調しました。



こんな緊急時にどうして国会を開催しないのでしょうか。野党は力を合わせて衆議院選挙で政権交代して欲しいと願います。

池田町議会が準備

「あずみ野池田いきいき食育条例」

池田町議会は「あずみ野池田食育条例」制定を進めています。

この条例制定について議会では平成 29 年に 6 名の議員による「食育推進特別委員会」を作りました。委員の一人である横澤はま議員にお話をお聞きしましたので紹介します。

記者「食育について教えてください。」

議員「国は平成 17 年、食育に関する施策を総合的・計画的に推進するため「食育基本法」を制定しました。その具体化のため食育推進基本計画を 4 次に渡り、現在まで進めています。

本法律の前文には「子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼす」と、特に子どもの食育を重視しています。

記者「委員会はどうなことをしましたか。」

議員「平成 29 年に全国初の食育

条例を制定した福井県小浜市の見学や、青森県鶴田町を訪問し「朝ごはん条例」を学習しました。

さらに令和元年には三重県名張市の「ばりばり食育条例」、2 年には静岡県三島市の条例も勉強しました。

記者「池田町はどのように進められていますか。」

議員「子育て計画の中に位置づけて、平成 29 年に「食育推進計画」が出来ました。しかし基本となる「食育条例」が制定されていません。

食育推進計画が総合的・計画的に着実に推進されていくためにも「条例」が必要と考えています。

記者「条例の基本的施策はどの

ような内容ですか。

議員「第一に「食を通じて健康づくりの推進」として、

「早寝・早起き・朝ごはん」の推進、減塩・野菜などに配慮した「日本型食生活」の普及。

第二に「食を通じて心豊かな人づくり・食文化の継承」

第三に「食の循環と環境を意識した食育の推進」

第四に「食育推進活動の展開」は、議会、教育・福祉・医療、食育関係者、食品関連事業者との連携と協働により施策を講じる。などです。

記者「制定の目標はいつですか。」

議員「この 9 月の定例議会で制定したいと、取り組んでいます。

記者「ありがとうございます。」



コラム 有明

8 月は平和を語り継ぐ月だ。76 年前の戦時中の女性たちはどんな日々を送っていたのだろうか。自分の意思ではなくすべて国の命令に従い「お国のため」と言われて育つたへいわってどんなこと?」の本を開いてみた。「おなががすいたらだれでも ごはんがたべられる」「みんなのまえで だいすきなうたがうたえる」「いやなことは いやだつて ひとりでも いけんがいえる」「おもいつきり あそべる」「あさまで ぐつすりねむれる」「いのちは ひとりにひとつ おもたい いのち」「へいわつて ぼくがうまれて よかつたつていうこと」・・・と書かれている。語り継がれることを願う。▼憲法 9 条（戦争の放棄・戦力の不保持）は遵守するべきだと思う。戦後の復興と共に女性の社会参加も活発になりジェンダー平等が浸透し始めた昨今、ある新聞記事が気になった。ある世論調査で女性天皇賛成が 8 割だと示された一方で、県の保守系のセミナーでは「女系天皇につながるかねない」と皇室制度の女性宮家に断固反対したと言う。

日本共産党 池田ファンクラブ・ニュース あした天気にな〜れ

238号
2021年8月

発行責任者 太田 勅 (62-5727)
議員連絡先 薄井 孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)
編集責任者 山本 久子 (61-1066)

文芸欄

今月は川柳です

- 地上戦語り続けた母が逝く
- 四番打者三割切ったら交代だ
- 真心（こころ）なし糊でページを読みとばし

徳子
邦夫
山茶

